

音楽の聴き方

会員 中橋 怜子



以前、春日大社で平城京のころの食事をいただく会に出席したことがあるのですが、その時出された羊羹が塩辛くてむせてしまったことを今でも覚えています。甘いと思いこんでいただいた羊羹が実際には塩辛かったので私の体は一瞬受け付けなかったというわけです。

私たちは梅干を口にしなくても見ただけで唾が出てきます。今これを読んで想像しただけで唾が出てきているという方もおられるかも分かりません。これは、私たちはイメージすることで体の働きを変化させることができるという証拠です。人間の行動や体のはたらきの殆どは過去の体験から生まれた情報、つまりイメージにコントロールされていると言っても過言ではなさそうです。

日本にもホリスティックな医療を目指す病院がようやく増えてきました。ある病院では、ガン患者さんを対象にイメージ療法を取り入れ着々と効果を上げているといいます。そこでよく使われるイメージが「川の流れ」だそうです。例えば川底の石にこびりついた苔が自分を苦しめているガンで、川の水がその苔を洗い流しびかびかに輝く石にしてくれるというイメージです。このイメージ療法、恐らく川など見えない診察室や部屋で行われるのですが、そんな所で突然「あなたの体の中の水が流れています…」と言われても、それをイメージすることはそんなに容易いことではありません。

そこで私の脳裏に浮かんだのがラヴェルのピアノ曲「水の戯れ」です。源泉から湧き出た一筋の水の流れが下るほどに水量を増し、時に速く時にゆっくり、一瞬淀みで止まったかと思うとまた滝が落ちるかのよう激しく流れる…流れる水の動きを見事に美しく繊細に表現したピアノ曲です。

少し曲の説明をしてからまずそのまま音楽を鑑賞してもらいその音楽から水の流れをイメージしやすい状態を作ります。そしていよいよ次はその水が自分の体の中を流れガン細胞を洗い流してくれる様子をイメージしながら聴いてもらいます。何もガン細胞でなくてもいいでしょう。風邪のウイルスでも頭の中から離れない辛い記憶でも、「浄化する」という意味では洗い流してしまいたいものなら何にでも応用できると思います。イメージすることを忘れてつい美しいメロディーに聴き入ってしまった…それもいいでしょう。美しいものに感動することは免疫力アップの効果も期待できると言いますから。

《音楽の力》を活かした音楽の聴き方というのは他にも色々考えられます。

音楽を少し研究すると、その音楽が生まれた経緯、作曲家の生活、健康状態などが分かってきます。あるイメージを持って音楽を聴くと、威勢のいい曲でも物悲しく涙が流れたり、また単調な旋律の中にも作曲者の溢れんばかりの喜びを共感できたりもします。

音の緩急、強弱、曲想などと聴く人が受けるイメージは別のものだと私は考えています。確かに穏やかな音楽は心を少しは穏やかにしてくれるかも知れないです。しかしもっとその音楽を研究することにより、心や体のための処方的なもう一步踏み込んだ音楽の活用ができるのではないのでしょうか。

パリで死の直前にショパンが書いた「舟歌」、難聴、体調不良、失恋…自殺まで考えた人生のどん底でベートーヴェンが「この運命に打ち負かされてたまるか」と奮い立つ思いで書いたピアノソナタ「月光」、特に三楽章を聴くとベートーヴェンの奮い立つ思いがこちらにまで伝わってきます。あるイメージを抱きながら聴いた音楽は、私たちの心の奥深くまで忍び込み、時に落ち込んだ心を慰めてくれたり、励ましてくれたりします。

「音楽はただボーッと聴くのもよし、時には何かをイメージしながら聴くのも面白いものです。

<プロフィール>

声楽家。音楽を読む研究所主宰。「歌の力」に注目した～言葉と音楽によるコンサート～《言葉小箱》（ことのは・こぼこ）を各地で開催。また音楽療法にも取り組んでいる。音楽を聴いた時の〈共感〉から生まれる深い感動がいかにカラダとココロにいい効果をもたらすか、「カラダとココロに効かせる音楽」について、独自の研究と活動を続けている。

名句の花束 (17)

副会長 三野 博司 (奈良女子大学教授)

いちばんたいせつなのは自分の務めを果たすことだ (1)
 (L'essentiel est de bien faire son métier)
 カミュ『ペスト』1947年

3月11日の震災の直後、まず頭に浮かんだのは、カミュが『ペスト』において描いた災厄との闘いでした。

地震のあと、その報道はただちにフランスにも伝わり、国際カミュ学会会長のアニェス・スピケルさんを始めとして、10名を越える理事会のメンバーから、日本カミュ研究会に所属する仲間たちの身を案ずるメールが次々と届きました。始めの時点では仙台在住の会員との連絡が取れなかったのですが、そのひとりを除いてひとまず他の全員の無事が確認できた時点で、私は理事会に宛ててその旨を伝える短い報告を送り、同時に、この非常時にあって『ペスト』のなかの一つのことばを思い出すと書き添えました。それは病疫の災禍のなかで、医師リュウが発する「いちばんたいせつなことは自分の務めを果たすことだ」ということばです。あまりにも単純ですが、単純であるだけに力強いメッセージとなりうる、そうした類のことばであるように思われたのです。

ところで、震災直後にカミュの『ペスト』のことを考えた人は、他にも大勢いました。

辺見庸氏は3月16日、共同通信を通じて全国の新報に配信されている「水の透視画法」で、「非情無比にして荘厳なもの」と題して震災による日常の崩壊を語っています。そこで、カミュが『ペスト』において医師リュウに語らせたモラル、すなわちこの世に生きる不条理はどうあっても避けられないが、それでもなおひたすら誠実であることのかげがえのなさを取り上げて、これは「あきれられるばかりに単純な命題」であるが、「いかなる修飾もそがれているぶん、かえってどこまでも深玄である」と述べました。(『水の透視画法』共同通信社、2011年6月に再録)

鹿島茂氏は、3月23日『毎日新聞』東京版の朝刊において、3・11以前の日本はサルトルの『嘔吐』の世界であったが、いまや際限なく続く敗北であることを知りながら戦うことをやめない『ペスト』のリュウのことばをこそ、人々は理解するだろうと指摘しています。

また吉川一義氏は岩波文庫版『失われた時を求めて』第2巻の「訳者あとがき」(2011年3月某日)

で、「このような惨事を生き延びるには、当座はカミュの『ペスト』のような連帯の文学が必要とされるのかもしれない。連帯と希望がなくては、生きていけないからである」と記しています。



さらに、竹森俊平氏は5月25日発行の『日本経済復活まで、大震災からの実感と提言』(中央公論社)のなかで、震災直後に『ペスト』を読み返したときの感想として、「(カミュは)日本が経験しているような悲劇の巨大さを、あますところなく伝えることのできる、唯一の作家ではないだろうか」と述べて、この小説に示されたカミュの洞察の「あまりの鋭さ、仮借なさに感服し、たじろいでしまう」と述懐しています。

だが、それだけではありませんでした。インターネットの個人のブログで、カミュの『ペスト』について書いている人が、ずいぶんと大勢いたのです。だれもが、壊滅的被害のなかでの悲惨と混乱を前にして、カミュが主人公リュウに託したメッセージを真にリアルなものとして受けとめていました。

かつてカミュのモラルは、フランスにおいて「赤十字のモラル」と揶揄する人もありました。しかし、このモラルは第二次大戦という人類にとっての非常事態において生まれ、鍛え抜かれたものなのです。繁栄を謳歌し、浮かれ騒いでいる時代にはこのモラルは微温的で、物足りないものと目に映るでしょう。しかし、いまや戦時のモラルこそが必要なのではないのでしょうか。(以下次号)

Junko のパリ便り (3)

～POT という習慣～

高橋 潤子

長いバカンスが終わり新学期が始まる 9 月、そして 10 月は人事異動のシーズンである。といっても、学校以外は新入社員が一度に入社するという事はない。同じ年に同じ会社に入ったとしても、全く同じ日から就業するという人は多くて数人であり、日本で 4 月に行われるような数百人規模の入社式は見かけない。これは仕事というものがあくまでも会社と社員の間の個別の契約に基づくものであり、一社員と他の社員の契約はそれぞれ独立しているとされているからであろう。



異動も退職も同様である。新内閣の組閣や、選挙後に市長が変わってお役所内の担当が変わる場合、あるいは不祥事や合併などで会社の人事を一新する必要がある時の他は、同日付で何人、何十人もの異動が行われることはない。退職も、定年の年齢となる誕生日を迎えた順に会社を去ることになる。有給休暇をため込んで、最後の年はほとんど来なくなる人もいれば、特例措置(会社によるが)を利用して、定年後もパートタイム勤務などの形で仕事を続ける人もいる。人それぞれというわけだ。

個人的に仕事に来ているわけだから、社員旅行や飲み会への参加を強要されることもない。上司が部下のプライベートな問題に口を出すこともなければ、結婚式に会社関係の人間を義理で招待することもない。今では少なくなったが、日本の会社の上司が部下のお見合いをオーガナイズしたり、それほど親しいわけでもない上司が結婚式でスピーチをしたり、休日に社長のゴルフにつきあったりするのは、フランス人から見ると奇異なことこの上ないようだ。仕事とプライベートは全くの別物なのである。

ならば会社内では仕事を離れた交流が全くないかといえば、そういうわけでもない。フランスには pot (ポ) という習慣がある。これは一種の懇親会であり、たいていは職場の一角にワインやジュースなどの飲み物とつまみを用意し、立食の形で歓談するというものだ。開催の理由は結婚、出産、試験合格などプライベートなものから、着任・転任・退職・昇進など、仕事がらみのもので様々だが、お祝い事のある方が主催者であるという特徴がある。つまり結婚のお祝いならば、新郎または新婦が皆にふるまうということになる。時には pot の席上で新郎(新婦)に有志からのプレゼントが渡されることもあるが、プレゼントにはお金はださないけれど pot には参加する、あるいはその逆、どちらにも加わらない、どちらも参加など、pot への参加もプレゼントへの出資も完全に個人の選択に任されているのだ。

夫の職場は、チームを組んで仕事をすることが多いせいか、pot の回数が異常に多い。「今日は上司の pot があるから遅くなる」と言った数日後に、「今日は上司の pot があって…」と仰いでいる。「こないだあったばかりじゃないの?」と詰め寄ると、「こないだのは前の上司の送別のためで、今日のは新しい上司の着任の pot なんだ」とのこと。まとめてやれよ〜っ! と思ってしまう。他にも昇進試験が終わった、昇進試験に合格した、昇進したグレードに正式に任命された、と同じネタで 3 度も pot をやったのには驚くよりもあきれ果てた。同時に受験して合格した仲間と共同で開催していたから、経済的負担は少なくすんだが、子供が生まれた時には個人でシャンパンを数本持っていったから、費用もばかにならない。こう回数が多いのは、社内の雰囲気友好的だというより、社内にやたらと飲兵衛がいるためだと私は確信している。

誕生日をネタに pot というのはほとんどない。そんなことをしたら大きな会社だと毎日 pot になってしまうからだろう。それでも、誕生日の人が率先してふるまうという風潮はあるようで、誕生日の人がワインを差し入れたり、お菓子を持ってきたりすることもある。だからフランスの会社では今日が誕生日だとばれない方がいい。「おめでとう!」の祝福の後は「じゃあ、クロワッサンでもおごって」ということになりかねないのだ。

秋のイベントのおしらせ

🎵 秋の教養講座 Conférence culturelle d'automne

会員藤村久美子さんによる、講演とピアノ演奏、フランス料理

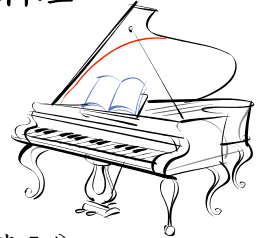
『モリス・ラヴェル ～仮面を被った音の魔術師～』

と き 2011年10月30日(日) 11時～14時半頃まで

ところ 登大路ホテル TEL 0742-26-7874 近鉄奈良駅東へ徒歩5分

参加費 5000円(会員・非会員)

定員 36名(申込順 締切10月20日)



～藤村さんのコメント～

私がラヴェルという作曲家を知ったのはやはり「ボレロ」であったと思います。シンプルなテーマがその音色だけを変化していき、一方通行のクレッシェンドはいやが上にも聴く者の精神を高揚させ、より一層の高みへと駆け上がり立って行きます。もう限界!!と感じたその瞬間、にわかに転調し不意打ちをくらわすように突然終止する。なんと巧妙にしかも表向きは何の作為もないかのごとくみせかける。これこそラヴェルの全てが凝縮された作品といえるでしょう。自身「たった一つ傑作を書いたボレロだ、でもその作品には音楽がないんだ」と言ったということです。この言葉は何を意味するのでしょうか？ラヴェルは、自分の正体をあまり明かしません。むしろ、仮面をかぶって、私たちにたぶらかすことが多くあります。芸術作品というのはできるだけ如実にその作者を体現することを良しとするものですが、そういう紋切型の考えが通用しない実に希有な作曲家モリス・ラヴェル。その作品と人間に迫り、仮面の奥に隠された魅力を皆様とともに味わってみたいと存じます。



ボジョレー・ヌーヴォーの夕べ La Fête de Beaujolais Nouveau

今年もいよいよボジョレー・ヌーヴォーの解禁日が近づいてまいりました。

深まりゆく秋の夜、会員の梨里香さんの素敵なおシャンソンを聴きながら、今年の新酒をお楽しみいただきたいと思います。

と き 2011年11月22日(火) 18時30分～21時頃まで

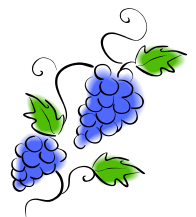
ところ カフェテリア サンフラワー TEL 0742-33-8223

奈良市芝辻町4丁目9-3 アルファビル1階

近鉄新大宮駅下車 北へ徒歩5分 年金保険事務所南側

参加費 会員 3500円 / 非会員 4000円 (ワイン・軽食込)

定員 30名(申込順 締切11月12日)



お問合せと申込み 奈良日仏協会事務局 E-mail afjn_info@kcn.jp TEL/FAX 0743-52-3939

◆ いずれの催しも、定員がございますので、同封のチラシをご参照の上、

FAX またはメールにて事務局までお早めにお申し込みください。

第102回 フランス・アラカルト開催

～ヴェルサイユ出身の若い女性イザベル・ルグランさん（ソルボンヌ大学卒）を迎えて～

今日は、ヴェルサイユ大学とソルボンヌ大学で出版学を学んだという若いフランス人女性のお話を聞きました。彼女は修士を取った後パリの出版社で実際研修までしましたが、結局仕事はみつからずワーキングホリデーで日本にやってきました。今回再来日後は京都で日本語を学びながら外国人に日本語を教える資格を取るための勉強をしています。フランスでも若い人の就職はなかなか大変なのだなあと思いました。

会員 山中 陽子

9月15日（木）15時から、いつものように西登美ヶ丘のMardi Mardiで、フランス・アラカルトが開かれました。今回のゲストは、ヴェルサイユ出身の若い女性 Isabella Legrand さんです。ヴェルサイユの大学で、フランス文学を学び、ソルボンヌ大学で出版学の修士号をとった後、小さな出版会社でのスタージュで経験した出版に関するあらゆる段階の仕事や心地よい人間関係は、彼女にとって楽しい思い出となったようです。カナダ、イギリスを経て、それまでほとんど興味のなかった日本にやって来た彼女でしたが、暮らしているうちにすっかり日本と日本人が好きになり、今では日本語学校に通いながら、日本で仕事を探しているそうです。日本語はまだ少ししか話せないと聞いていましたが、彼女の的確な日本語での返答にしばしば驚かされました。お話の後は、いつものように、お茶とお菓子をいただきながら詩の朗読を聴く時間です。今回は、季節に因んで Paul Verlaine の Chanson d'automne と、Charles Baudelaire の Chant d'Automne でした。詩の朗読をするのはこれが初めてだとのことでしたが、仲井氏のギター伴奏ともぴったり合った美しいフランス語に、皆うっとり聴き惚れました。次回はまたどんな出会いがあるのか楽しみです。

理事 森井 桂子

<次回フランス・アラカルトのお知らせ>

第103回のアラカルトは、エリザベトさんをゲストとしてお迎えする予定です。

日 時	11月17日（木）15時から
会 費	会員 1000円、非会員 1500円（お菓子とドリンク付き）
場 所	カフェ「Mardi Mardi」（マルディ・マルディ）TEL/FAX:0742-44-5701 奈良市登美ヶ丘3丁目12-9 登美ヶ丘ビル1F（駐車場あり） 学園前駅からバスで7分（110・128・129・130・138・260番）西登美ヶ丘二丁目バス停すぐ、 http://mardimardi.exblog.jp/11477753/
お問合せと申込み	奈良日仏協会事務局 E-mail afjn_info@kcn.jp TEL/FAX 0743-52-3939

会員主催コンサートのお知らせ

♪会員三木康子ピアノリサイタル — 時空を超え未来に響く音を求めて — No.3

日 時	11月5日（土）17時～
場 所	イシハラホール TEL 06-6449-1276 大阪市西区江戸堀1-3-15 新石原ビル2階 一般4000円／学生2000円（自由席）
お問合せ、チケットのお申し込みは、三木理事	0742-61-8225 まで

「奈良ブルゴーニュ・クラブ」へのお誘い

会員 内田 茂

「奈良ブルゴーニュ・クラブ」は中級程度のフランス語を読む会で、原則として毎月第4金曜日の朝10時から、中部公民館（上三条町23-4）で開いています。教材としては「現代フランスの基礎知識」（白水社）という教科書を使っていますが、もう半分以上読みましたので、次は参加者の皆さんの希望も考慮して選ぶつもりです。以前にはモラリスト文学や詩作品も読みました。

参加費は1回1500円です。

お問合せは、内田 茂さん 080-1411-0056まで。

フランス生まれの手芸講座のお知らせ

暮らしの中にフランスを感じる、フランス生まれの手芸講座。
 今回は、美しいさまざまな小物が作れる、今人気の「カルトナーージュ」レッスン。
 「カルトナーージュ (Cartonnage)」とは、厚紙 (カルトン) を組み立てて、美しい布や紙を覆って作るフランスの伝統的な手芸です。短い時間で手軽に作れる上、生活の中で実際に使えるというのがその人気の秘密。アクセサリケースなどの小物入れや、裁縫箱、ブックレットやフォトフレーム etc. さまざまなものを作って、友人にさりげなく自慢しちゃいましょう！ 第2回目のレッスンは、BOOK型BOX。上品なセンスの良さが好評な尼川先生のレッスン。先生ご自身がパリで仕入れてこられたフランス製の素敵な布を何種類もご用意してくださっています。ご参加お待ちしております。

と き 11月19日(土) 13時30分～15時30分頃

ところ カフェテラス サンフラワー

奈良市芝辻町4丁目9-3 アルファビル1階
 近鉄新大宮駅下車 北へ徒歩5分(年金事務所南側)
 駐車場有(ご利用希望の方はお申し出ください)

参加費 3500円(材料費、レッスン料込、1ドリンク付)
 定員 10名(先着順)
 講師 尼川 香陽子さん
 <プロフィール>

2008年より大阪北区、奈良、京都にて数多くのカルトナーージュを指導中。
 毎年パリにて直接購入される布や輸入生地をセンス良く、エレガントに使用されるレッスンが大好評です。



*** 9月17日のトピアリーレッスン ***

アトリエレッスンが大人気の vert de gri flower 主宰の古川さやか先生のレッスン。
 人気の理由の1つは、センス溢れるアンティークな色使い。
 今回もアンティークピンク、ダークパープル、グリーンプラウンの
 3色の花材の中から、参加者の皆さんにお好きな花材を選んでいただきました。
 花材を小分けしてワイヤリングは、ちょっぴり難しかったかもしれませんが
 皆さんそれぞれの素敵な秋色トピアリーを完成させて喜んで帰られました。
 花材キットを購入し、自宅でもう一つ制作された方もいらっしゃいました。



◆ クリスマス特別レッスンのお知らせ ◆

好評につき、今回特別にクリスマスミニリースとミニカップアレンジレッスンを企画しました。
 自分の手作りの作品でお部屋を飾り、楽しいクリスマスを迎えませんか？

と き 12月3日(土) 13時30分～15時30分頃まで
 ところ カフェテラス サンフラワー
 参加費 4000円(材料費、レッスン料、1ドリンク付)
 定員 13名(先着順)
 講師 古川 さやか先生 (vert de gris flower 主宰)



お問合せ：参加申込み 手芸講座事務局 中野まで (090-7750-8570)

奈良日仏協会 会員主催の各種講座

曜	時間帯	場所	講師	内容、教科書	問合せ先
火	12:30～14:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、 仏検 "Echo 1" CLE International	clubfrancenara@kcn.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
火	17:00～18:30	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	Initiation à la langue arabe (cours donné en français) Arabe Littéral 1 Klincksieck	同上
火	19:00～20:30	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	"Spirale" Hachette / Pearsons Communication 1 初級 A	同上
水	12:30～14:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	"Edito" / Vidéo / Cours préparation DAPF-DELF	同上
木	12:30～14:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	"Echo 2" CLE International / DAPF-DELF	同上
木	19:00～20:30	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	"Spirale" Hachette / Pearsons Communication 2 初級 B	同上
金	10:50～12:50	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	"Echo 1" CLE International / Communication 3 DAPF-DELF 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、 書き取り、仏検読書	同上
日	毎月2回 (10/9, 23, 11/6, 27, 12/4, 18) 10:00～12:00	奈良市 中部公民館	ジャメ 先生	"A la page" Edition Asahi 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、 書き取り、仏検読書/DELF	同上
土	毎月2回 (10/15, 29, 11/19, 12/3, 17) 14:30～16:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	通訳翻訳講座	同上
日	毎月1回 14:00～16:00	奈良市 中部公民館	ジャメ 先生	読書・討論会 (仏検、DELF/DALF)	同上
金	毎月第4金曜 10:00～12:00	奈良市 中部公民館	内田茂 先生	フランス語講読 「現代フランスの基礎知識」(白水社)	080-1411-0056 (内田) 0742-45-3710 (森)
日	2ヶ月に1回 (10/9, 12/11) 14:00～17:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	ジャメ 先生	フランス歌曲について	clubfrancenara@kcn.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
火	毎月第1・3火曜 10:30～12:00	カフェ・ミュゼット(学園前)	梨里香 先生	シャンソン	06-6922-6502 (中辻)

第 26 回 奈良日仏協会シネクラブ例会の案内

日 時	10 月 30 日 (日) 13:00~17:00 (受付 12:45~)
会 場	奈良市西部公民館 (近鉄学園前駅南) 4 階第 2 会議室
プログラム	『パリ 20 区、僕たちのクラス』(Entre les murs, 2008 年, 128 分)
監 督	ローラン・カンテ
参 加 費	奈良日仏協会会員 無料 非会員 300 円
問い合わせ	浅井直子 Nasai206@aol.com

12 月に予定していましたが第 26 回シネクラブ例会ですが、急遽予定を変更して、10 月 30 日 (日) に開催することになりました。というのも、今年 7 月からパリに拠点を移して映画製作の仕事に携わっているピエール・シルヴェストリさんが、この秋撮影をかねて一時帰国されるのに合わせ、ゲスト・プレゼンターとしてお招きすることになったからです。

ピエールさんが「子供」をテーマに選んだ映画は『パリ 20 区、僕たちのクラス』です。この作品は、パリの中学校でフランス語教師をするフランソワ・ベゴドーが、自らの経験をもとにして書いた同名の小説の映画化です。監督のローラン・カンテはこの本を読み、ドキュメンタリー的側面と、教師と生徒たちとの真正面から向き合う関係に強く惹きつけられ、著者のベゴドーとともにシナリオを練り上げ、そしてベゴドー自身が俳優として教師の役を演じています。本作品が 2008 年のカンヌ国際映画祭で、最高賞パルムドールを受賞したことは、記憶に新しいところです。もう少し詳しい作品案内は、奈良日仏協会ホームページをご参照ください。(<http://www.afjn.jp/>)

尚、11 月 26 日 (土) と 27 日 (日) には、第 8 回奈良名作映画祭が奈良県文化会館国際ホールにて開催されます。今回私たちのシネクラブは、この映画祭の広報に協力しています。「モンナラ」同封のチラシに記載されていますプログラムと日程をご覧になって、ぜひ映画祭にお出かけ下さい。カトリーヌ・ドヌーヴ主演のフランス映画『しあわせの雨傘』(2010) もプログラムに入っています。

2011 年度 第 5 回理事会報告

日 時	2011 年 9 月 30 日 15:00~17:00
場 所	グリーンホテル馬酔木
出席者	坂本会長、三野副会長、濱副会長、ジャメ副会長、浅井理事、井田理事、高尾理事、仲井理事、中野理事、樋口理事、三木理事、森井理事
議 事	①当面の活動計画 * 秋の教養講座 * ボジョレ・ヌヴォーの夕べ ②クラブ活動 * フランス・アラカルト * シネクラブ * フランス生まれの手芸講座 ③モンナラ編集・発行 * 編集担当交代について * 次号発行予定 ④その他 * 次回理事会 11 月 25 日 (金) 15:00~ グリーンホテル馬酔木 会議室

皆様の投稿を常時募集しています！

モンナラでは会員の皆様の投稿を募集しています。論文、エッセイ、旅行記、最近の出来事、会員の皆様の活動などジャンルは問いません。なお、文章は、意味を変えない表現の変更等をさせて頂く場合があります。予めご了承下さい。奇数月 20 日が締切です。

Mon Nara Septembre - Octobre 2011 9,10 月合併号 Numéro246

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : afjn_info@kcn.jp TEL&FAX 0743-52-3939
〒630-8691 郵政事業株式会社奈良支店 私書箱 30 号 (郵便物) 発行責任者 : 坂本成彦

